

議題 1. 2020年度事業報告 概要

2020 年度に計画された事業については、一部事業の中止や縮小などもあったが、Web 会議システムを活用し、概ね順調に事業を進めることができた。以下、各委員会の活動をトピックのみ紹介するが詳細は資料を確認いただきたい。

- ・ 理事会では予定していた北海道大学での総会開催を中止し、東京都での縮小開催とした。初めて書面表決書を用いることで会員の議決権行使の便を図った。
- ・ 韓国医学図書館協会秋季学術大会への派遣及び総会への来賓招聘は中止した。
- ・ 国際交流委員会は、総務会の下にワーキンググループとして置く事とした。
- ・ 医書電子化検討ワーキンググループでは JMPA 会員社からの会員館向け提案を受け支援が実施された。
- ・ 著作権啓発ワーキンググループでは JMPA と協同作成したリーフレットに修正が生じたため、Web 公開を中止した。
- ・ 企画・広報委員会では会員への情報提供の向上を図るためホームページのリニューアルに取り組んだ。
- ・ 機関誌「医学図書館」編集委員会では編集業務を省力化するとともに、校正方法も工夫した。
- ・ 出版委員会では 4 点の出版について検討、準備を進めた。
- ・ 学術情報コンソーシアム委員会では集合型説明会を中止し、ホームページ上で提案各社のプレゼン動画を公開した。
- ・ 教育・研究委員会では JMLA コア研修と JMLA 学術集会開催を中止、今後の開催方法につき検討した。また、E-ラーニング教材の作成に取り組んだ。
- ・ 医療・健康情報委員会では計画を変更し、患者図書室のおススメ資料コーナーの開設を検討した。また、医療・健康情報パスファインダー作成に取り組んだ。
- ・ 認定資格運営委員会ではコア研修中止やその他のポイント活動が制限されている状況に対応し、更新期間やポイント対象期間の延期を行った。
- ・ 受託事業委員会では大阪開催を予定していた文献検索ワークショップ開催を中止し、今後の開催方法を検討した。
- ・ 協会賞・奨励賞選考委員会では候補業績を選考し、理事会に報告を行った。
- ・ 組織・制度委員会では改定された定款に基づき定款、規程、細則、内規の序列について検討し、新旧対照表にまとめた。
- ・ 病院部会では Web 会議システムによる研修会を実施した。

議題 1. 2020年度事業報告

I. 総務会

1. 委員

担当理事 阿部 潤也（東歯大）、河合 富士美（専務理事・聖路加）、城山 泰彦（順大）、児玉 関（東邦大）、田口 宣行（埼玉大）

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第1回 4月17日

第2回 6月18日

第3回 7月30日

第4回 10月15日

第5回 11月30日

第6回 2月18日

2) 第91回（2020年度）総会を2020年6月26日に聖路加国際大学（東京都）で縮小して開催した。分科会は中止とした。

3) 第92回（2021年度）総会を2021年5月27日、第93回（2022年度）総会を2022年5月27日に日本教育会館（東京都）にて縮小開催することとした。企業展示の代わりとなる動画によるプレゼンテーションを企画、参加企業を募集した。総会と時期をずらして分科会をWeb開催することを検討した。

4) 2020年度地区会事務局連絡会議を11月27日に開催した。

5) 2020年度委員長会議を1月28日に開催した。

6) 韓国医学図書館協会秋季学術大会への派遣及び総会への来賓招聘は中止した。

7) 地区会会議に理事が出席した。（11月13日中国・四国、12月18日近畿）

8) 会議システムとして、Cisco Webexを導入した。

9) 国際交流委員会は、当面は活動内容が制限されると判断し、総務会の下でワーキンググループとして活動することとした。

10) 会員館の労働問題について意見交換を行った。

11) 奨学基金の使い方と長期財政計画、役員選出方法の検討については継続審議とした。

12) 関連団体との連携を検討・継続した。

13) その他、理事会及び各委員会活動に関する検討、意見調整を行った。

3. その他

担当委員会のあるものは、当該委員会の事業計画（案）を参照

4. 今後の課題

- 1) 奨学基金の使い方と長期財政計画の検討
- 2) 役員選出方法の検討
- 3) 業務精査と合理化、事業の見直し

5. 事業別報告

1) 医書電子化検討ワーキンググループ

(1) 委員

担当理事 総務会

グループ長 児玉 闔 (東邦大)

委 員 磯本 善男 (個人)、河合 富士美 (聖路加)、城山 泰彦 (順大) [6月1日から]、田口 宣行 (埼玉大)、満岡 侑子 (連中)

(2) 事業計画と年間目標の達成状況

①委員会の開催

第1回 11月25日

②日本医書出版協会(JMPA)との国内医書電子化に関する意見交換

JMPA との国内医書電子化に関する懇談会は、新型コロナウイルス感染症の影響で、2020年度は1回のみとなった。電子ブックの施設向け提供モデルについて、これまでより具体的な仕様が示され、意見交換をした。

(3) その他の報告事項

①委員の補充

城山泰彦委員(順大)が6月1日付で就任した。

②JMLA 会員向け支援

JMPA 会員社から、新型コロナウイルス感染症で困窮する JMLA 会員館向けに支援の提案があり、実施された。

・南江堂 電子ジャーナルの無償公開 (4月20日から6月30日、会員館66館が利用)

・医学書院 『系統別看護師(保健師) 国家試験 WEB 法人サービス フルプラン』および『e ナーストレーナー』コンテンツの無料公開 (5月31日まで)

・医学書院、南江堂、南山堂 医学部医学科向けの著作物利用許諾契約(無償許諾)(2020年度)

(4) 今後の課題

JMPA との国内医書電子化に関する意見交換の継続

2) 著作権啓発ワーキンググループ

(1) 委員

担当理事 総務会

グループ長 児玉 闔 (東邦大)

委 員 河合 富士美 (聖路加)

(2) 事業計画と年間目標の達成状況

① 委員会の開催 なし

②JMPA と協同作成したリーフレットに修正が生じたため、Web 公開を中止した。

(3) 今後の課題

リーフレットの修正と公開

3) 国際交流ワーキンググループ

(1) 委員

担当理事 総務会

グループ長 河合 富士美 (聖路加)

委員 神尾 ひろ子 (日大歯)、新藤 暁子 (聖路加)

アドバイザー 諏訪部 直子 (個人)

(2) 事業計画と年間目標の達成状況

① 委員会の開催

第1回 11月20日

② 韓国医学図書館協会 (以下、KMLA) との連携

JMLA 年次総会への招聘及び KMLA 秋季学術集会への派遣は中止した。中央事務局が担当する事務連絡をサポートした。

③ 米国医学図書館協会 (以下、MLA) との連携

MLA との連携に係る活動は特に無かった。

④ 英語での国際交流活動の情報発信

・旧・国際交流委員会ホームページ

全体のリニューアルに合わせ修正・移動する

・JMLA 関連名称の英語表記の改訂

最新の版に更新した。

⑤ 海外からの問い合わせ、医学図書館見学希望者への対応

特に無かった。

6. その他の実績

1) 会員の動向

入会

正会員 B

川崎市立川崎病院庶務課図書室

正会員個人 7名

維持会員 1名 (個人)

退会

正会員 A

日本歯科大学新潟生命歯学部図書館

武庫川女子大学附属図書館

正会員 B

国立循環器病研究センター図書館

正会員個人 8名

- 維持会員 1 名（団体）
- 維持会員 1 名（個人）
- 2021 年 3 月 31 日現在の会員数
 - 正会員 A 99 機関
 - 正会員 B 47 機関
 - 正会員個人 107 名
 - 協力会員 2 機関
 - 維持会員 12 機関（団体）
 - 維持会員 4 名（個人）
- 2) 寄付（助成金）
 - 株式会社紀伊國屋書店
- 3) その他
 - 資料の共同購入ほか
 - 図書館年鑑 30 冊 444、000 円
 - KMLA への文献複写提供実績 13 件

Ⅱ. 企画・広報委員会

1. 委員

- 担当理事 阿部 潤也（東歯大）
- 委員長 黛 崇仁（東邦大）
- 委員 天野 いづみ（静岡赤）[2020 年 12 月から]、川崎 かおる（岩医大）
- ホームページ担当ワーキンググループ（WG）
- グループ長 藤沢 靖子（杏大医・グループ長）
- 委員 鷹野 祐子（都医学研）、水嶋 直子（順大）
- 会員統計担当 WG
- 委員 井上 俊子（神常盤）、梅内 美鈴（北里白）、滝野 美和子（田附研）、
徳江 紀子（国がん）
- 重複交換担当 WG
- 委員 柏俣 友紀（日看協）
- 要覧担当 WG
- 委員 曾田 昌弘（関医大）

2. 事業計画と年間目標の達成状況

- 1) 委員会の開催
 - 第 1 回 1 月 21 日
 - 第 1 回ホームページ担当 WG 11 月 13 日
 - 第 2 回ホームページ担当 WG 12 月 18 日
- 2) 企画・広報委員会

(1) 委員会体制の整備

業務内容の整備を行い、WG 事業が円滑に進むよう調整・支援を行った。

(2) 国立国会図書館 (NDL) への蔵書寄贈システムの構築

NDL から本事業に対する合意を得て、2020 年 7 月 22 日締め切りで第 1 回印刷版医学雑誌寄贈調査を実施したところ、2 会員館から合計 136 冊の申請があった。

また、2021 年 2 月 5 日、第 2 回印刷版医学雑誌寄贈調査を実施した。

(3) 広報活動

JMLA メーリングリスト (ML) の管理・整備、不達メールの対応をおこなった。

3) ホームページ担当ワーキンググループ

(1) ウェブサイト更新体制

ホームページ担当 WG と中央事務局の協働により、遅滞なく更新できている。

(2) ホームページのリニューアル

3 社から見積もりを取り検討した結果、インフォレストに依頼することとなった。2020 年度中にリニューアルを行う予定である。

(3) 会員のページパスワード変更

2020 年 9 月に郵送にて案内した。

(4) 新型コロナウイルス情報支援リンク集を掲載

2020 年 2 月 10 日に新型コロナウイルス情報支援リンク集を掲載した。

(5) 会員館開館状況等を掲載

会員館一覧に、新型コロナウイルス感染症に関連した各館の開館状況等を掲載した。

4) 会員統計担当 WG

(1) 第 91 次会員統計

2021 年 1 月 28 日に、完成版をウェブサイトに掲載した。

(2) 統計項目の追加

備考欄に多く挙げられた回答項目等を、選択肢に追記した。

(3) 未回答館への対応

全館から回答を得ることができたが、中間報告の未回答館への対応に時間を要した。

(4) 第 92 次会員統計に向けて

統計項目の検討、ウェブフォーム改良と編集方法等の検討を行う。

5) 重複交換担当 WG

(1) 重複雑誌交換 ML

2020 年 7 月 21 日に会員 ML に対して、重複雑誌交換 ML の更新について案内を配信した。

(2) 第 71 回 (2020 年度) 重複雑誌交換事業の実施

2020 年 7 月 21 日に案内状を送付し、第 1 回 (2020 年 9 月 23 日～10 月 9 日)、第 2 回 (2021 年 2 月 8 日～2 月 26 日) で実施した。実績報告書の提出締め切りは 2021 年 3 月 19 日で、集計結果は機関誌とウェブサイトに掲載予定である。

(3) 第 70 回交換実績報告書

ホームページおよび機関誌 (戸村裕菜. 第 70 回 (2019 年度) 重複雑誌交換実績報告書. 医学図書館. 2020;67(2):125-27.) に掲載した。

- (4) 第 72 回重複雑誌交換に向けて
例年通りに、進められるよう検討する。

6) 要覧担当 WG

(1) 冊子体の発行

隔年発行のため、2019 年度の発行はなかった。

(2) 『要覧 2018-2019』変更点のウェブサイト公開

冊子体発行以降に改訂された規程や名簿等は、組織・制度委員会とホームページ担当 WG により、速やかに最新版を本会ウェブサイト上に掲載している。(冊子とウェブサイトの掲載内容が異なる場合はウェブサイトを優先)

3. 今後の課題

1) 委員会体制の構築

2) 委員会・WG の作業手順・業務分掌の明文化・マニュアル整備

Ⅲ. 機関誌「医学図書館」編集委員会

1. 委員

担当理事 田口 宣行 (埼玉大)

委員長 浅野 泉 (個人)

委員 石井 恵 (個人)、伊藤 智輝 (北里大)、大野 圭子 (個人)、
工藤 女恵 (個人)、菅 修一 (個人)、半澤 智絵 (個人)、百留 悦子
(埼玉大)、藤村 三枝 (滋賀大)

編集協力委員 平澤 杏里 (旭大)、山田 奈々 (青森保健大)、相澤 まゆみ (市
川崎病)、土田 壮一 (金大)、榊原 佐知子 (愛大)、藤原 純子 (個
人)、花川 久美江 (広大)、渡邊真由美 (九大)

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第 1 回 10 月 12 日

第 2 回 11 月 18 日

2) 「医学図書館」(年 4 号) の発行

(1) 定期刊行を維持した。

①67 巻 2 号 (2020.6.20) 特集「医学図書館員が知っておきたい最新情報」

②67 巻 3 号 (2020.9.20) 特集「COVID-19 と図書館」

③67 巻 4 号 (2020.12.20) 特集「誌上開催：幻の 2020 年度 JMLA 分科会」

④68 巻 1 号 (2021.3.20) 特集「医学系図書館における教養図書への取り組み」
「第 4 回 JMLA 学術集会」

(2) 編集業務の省力化を検討した。

①67 巻 1 号掲載分から、「ジャーナルクラブ」の論文概要掲載を省略した。

論文タイトルから内容が推測できるようになってきた一方で、概要を作成する負担、確認作業の負担が増加したため、編集協力委員、編集委員の作業省力化を行った。

3. その他の報告事項

- 1) 新型コロナウイルス感染症拡大により年4回予定していた委員会は年3回の開催にとどまった。また、移動制限により出張校正にも支障が生じ、最終校正を郵送で行うなど工夫を要した。このため67巻4号の発行をやむを得ず遅らせることとなった。
- 2) 「著作権に関する内規」と「執筆規定」の不整合について、組織・制度委員会とすり合わせを行うことになった。
- 3) 学術著作権協会からの著作権管理委託契約の提案について中央事務局と意見交換を行った。

4. 今後の課題

- 1) 引き続きオンライン委員会など業務の効率化を図りたい。
- 2) 「医学図書館」の特集は、編集委員会での意見交換や情報交換の中から企画してきたが、オンライン委員会では、必要最低限の意見交換しかできず、広い視点で企画を探しにくくなるのではないかと懸念している。
- 3) 新型コロナウイルスの影響で、やむを得ず出張校正を断念したが、代替の作業は担当編集委員、印刷会社双方にストレスがかかった。感染症の状況が好転し、出張可能となった場合は再開したい。

IV. 出版委員会

1. 委員

担当理事 城山 泰彦（順大）
委員長 吉新 裕昭（獨協医大）
委員 榊原 佐知子（愛医大）、堀 政人（国医情）

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第1回 11月 26日

第2回 2月 8日

2) 出版について

(1) 『図解 PubMed の使い方 第8版』の出版

2019年11月に New PubMed がリリースされ、ある程度仕様が固まってきたため、改訂作業を開始した。2021年度夏頃の出版を目安に、準備を進めている。

(2) 『医学文献索引の発展：Index Medicus から PubMed まで（仮称）』の出版

正会員個人による、医学文献索引に関する著作物について、2021年度夏頃の出版

を目安に、準備を進めている。

(3) 『わかりやすい医中誌 Web 検索ガイド検索事例付』改訂版の出版準備

医中誌 Web のバージョンアップが、2021 年夏頃から段階的にリリースされる。予定されている全ての機能がリリースされた後に、編集作業を開始する。改訂版の著者候補および医学中央雑誌刊行会と、調整して進めていく。

(4) 新出版物の検討

1 件の持ち込み企画があり、検討を進めている。

(5) 90 年略譜・100 年記念誌（仮）の刊行

冊子による出版は行わず、今後の 100 周年に向けて、データの整理に留める方向で検討した。

3. その他の報告事項

1) Maruzen eBook Library 年度末目録への掲載

「図解 PubMed 第 7 版」、「米国国立医学図書館分類法 2016 年度版 日本語版」、「やってみよう図書館での医療・健康情報サービス 第 3 版」の掲載を依頼した。

2) 販売方法追加の検討

冊子・電子ともに、新たな販売ルートを確保すべく検討を進めている。

4. 今後の課題

1) 新規出版物の検討

2) 販売方法追加の検討

V. 学術情報コンソーシアム委員会

1. 委員

担当理事 富田 麻子（日医大中）

委員長 田口 宣行（埼玉大）

委員 江幡 歌奈子（東邦大）、関根 智美（東女医大）、關山 悦子（岩医大）
[2020 年 9 月 30 日まで]、鷹野 祐子（都医学研）、登坂 善四郎（神奈こ）[2020 年 5 月 31 日まで]

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第 1 回 6 月 18 日

第 2 回 1 月 21 日

2) コンソーシアム提案交渉

日本薬学図書館協議会（JPLA）学術情報コンソーシアム委員会と合同で、出版元・代理店と 2021 年契約に向けたコンソーシアム提案の交渉を行った。ウェブ会議 4 回、その他メール、電話で交渉した。提案 18 社、提案数 78 件であった。

3) コンソーシアム提案の充実

提案 78 件のうち JUSTICE と同じ提案は 16 件で、62 提案は JMLA/JPLA 自の保健医療領域に特化したものであった。

4) コンソーシアム説明会

2020 年は集合型説明会を中止し、ホームページ上で提案各社のプレゼン動画を公開、さらに会員が各社と直接交渉できる問い合わせ窓口情報の案内を行った。

3. その他の報告事項

1) コンソーシアム説明会と提案に関するアンケートを正会員 A、B を対象に実施した。

2) コンソーシアム成立件数の調査を行った。

4. 今後の課題

1) Open Access がさらに進むことを想定し、PPV 提案や APC 割引サービスを求めている。

2) 移管誌の扱いについて、会員館に不利益が生じないように、出版元と交渉をしていく。

VI. 教育・研究委員会

1. 委員

担当理事 加藤 砂織（東女医大）

委員長 西村 志保（日医大中）

委員 石田 綾子（岐大医）、大瀬戸 貴己（奈医大）、大屋 玲奈（獨協医大）、菊地 元子（国病文献）

JMLA コア研修ワーキンググループ

グループ長 角田 ともえ（東海大伊）

委員 今井 千晴（浜医大）、関口 祥子（東歯大）[2020 年 9 月まで]、
平山 紀子（久大医）[2020 年 11 月から]

JMLA 学術集会ワーキンググループ

グループ長 白土 裕子（医中誌）

委員 岡村 夢（北里白）[2020 年 10 月まで]、工藤 千絵（帝京大医）[2021 年 2 月まで]、平舘 真希子（北大）[2021 年 2 月から]、廣瀬 瑛子（北里白）[2020 年 11 月から]

E-ラーニング作成ワーキンググループ

グループ長 大崎 泉（慈恵大）

委員 笹谷 裕子（杏大医）、清水 ゆかり（杏大医）、成田 ナツキ（個人）

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第 1 回 7 月 29 日

第 2 回 12 月 16 日

JMLA コア研修ワーキンググループ会議

第 1 回 8 月 5 日

第 2 回 10 月 7 日

第 3 回 11 月 16 日

第 4 回 1 月 18 日

JMLA 学術集会ワーキンググループ会議

第 1 回 11 月 24 日

第 2 回 2 月 9 日

E-ラーニング作成ワーキンググループ会議

第 1 回 10 月 6 日

第 2 回 3 月 3 日

2) JMLA コア研修の実施方法の検討とおよび試行

新型コロナウイルス感染拡大に対する本会の方針により、2020 年度 JMLA コア研修は中止になった。2021 年度第 5 回 JMLA コア研修は、オンデマンド型で 6 月末から 7 月上旬に行い、認定資格「ヘルスサイエンス情報専門員」の第 36 回募集（2021 年 7 月申請）までに受講証明書送付が完了できるように、スケジュールを調整する。認定資格運営委員会と調整し、第 5 回 JMLA コア研修受講生は第 36 回認定資格受審申請が可能となり、ポイントも認められることになった。

3) JMLA 学術集会の実施方法の検討および試行

新型コロナウイルス感染拡大に対する本会の方針により、2020 年度 JMLA 学術集会は中止になった。感染状況や JMLA コア研修などの検討状況も踏まえ、2021 年度第 5 回 JMLA 学術集会を、12 月上旬にオンラインで開催する。

研究発表は聴講形式で行うが、具体的な配信方法などはさらに検討する。

CE コースは「検索演習中級」とし、聴講形式の方向で検討する。

4) 第 22 回図書館総合展フォーラム（JMLA/JPLA 共催 主担当：JPLA）

本会や JPLA の方針により、集合型による図書館総合展フォーラムの参画を取りやめた。その後、図書館総合展運営委員会からオンライン開催の方針が打ち出されたが、フォーラム参画を見送った。

5) 助成募集

締め切り 1 か月前の段階で応募がなかったため、リマインドメールを送り会員への周知を図った。

(1) 研究助成

2021 年度の募集をおこなったが、応募はなかった。

(2) 海外研修助成

MLA International Visiting Health Information Professionals Program (I-VIP) 派遣者公募を含める形で 2021 年度の募集をおこなった。リマインドメールでは、オンライン開催の参加費用等も助成範囲とすることを明記したが、応募はなかった。

(3) その他

①2020 年度研究助成費受給者より「協会助成による研究の計画変更承認願ひ」が提出され、研究期間の延長が認められた。

②主な海外研修助成対象として、MLA フェローシップ(Cunningham Memorial International Fellowship)を追加し、HP での案内を始めた。

6) JMLA-CE 登録の実施

2020 年度は 4 件の申請を受け付け、審査後、認定資格運営委員会にポイント数を確認の上、JMLA-CE として登録した。一覧を本会ウェブサイト公開している。新型コロナウイルス感染症の影響により、1 件が開催中止となっている。

7) E-ラーニング

昨年度に公開した動画コンテンツに追加する自習用確認テストを、Google フォームとスライド(予定)で作成し、E-ラーニング教材として会員ページに公開した。

基本的なコンテンツのニーズが高いことから、コア研修や学術集会での事前学習として活用できるものとして、「PubMed の検索(基礎編)」(15 分)の動画を作成した。

3. その他の報告事項

2019 年度に教育・研究委員会関連部分の内容を見直した「講師謝金に関する規程」について変更が認められ、適用を始めた。

4. 今後の課題

関連する他の委員会との連絡・協働に努める。

Ⅶ. 医療・健康情報委員会

1. 委員

担当理事 児玉 関(東邦大)

委員長 岡田 光世(東邦大)

委員 赤石 知香(青森保健大)、及川 はるみ(聖路加)、西 さやか(東医大)、渡邊 基史(個人)

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第 1 回 8 月 4 日

第 2 回 10 月 13 日

第 3 回 3 月 8 日

2) 患者図書室の運営、業務、サービスに関する標準化の検討

(1) 患者図書室の訪問調査

(2) 訪問調査のまとめ

(3) 標準化案の検討

・ 2019 年度から継続して、患者図書室の訪問調査を実施する予定であったが、新

型コロナウイルス感染症拡大により、訪問調査を実施できず、関係する作業を休止した。

3) 患者図書室おススメ資料コーナーの開設

- (1) 患者図書室担当者・関係者同士で、所蔵する資料を紹介し合ったり、情報交換したりできるコーナーの開設を検討した。
- (2) 「Group Session by Cloud」内の掲示板を利用して、使い勝手などを検証した。
- (3) リニューアル後の協会ホームページに掲示板機能が付くそうなので、そこでの運用を目指して準備を進めた。

4) 委員1名の補充

6月1日付で、及川はるみさん（聖路加）を委員として補充した。

5) 医療・健康情報関連研修への講師派遣

JMLA による対応が必要と判断された場合に対応することになっているが、2020 年度に講師派遣要請はなかった。

3. その他の報告事項

1) 医療・健康情報パスファインダー作成

- (1) 2020 年度事業計画に挙げていた「患者図書室の標準化策定」を休止したため、患者図書室の標準化策定後に取り組む予定だった「医療・健康情報パスファインダー」の作成・公開を目指すこととした。
- (2) 作成方針、ルール、運用管理・方法等、実現に向けて検討を行った。

4. 今後の課題

- 1) 患者図書室おススメ資料コーナーの開設
- 2) 医療・健康情報パスファインダー作成
- 3) 患者図書室の運営、業務、サービスに関する標準化の検討
- 4) 医療・健康情報関連研修への講師派遣

VIII. 認定資格運営委員会

1. 委員

担当理事 北川 正路（慈恵大）

委員長 山崎 むつみ（静岡がん）

委員 小林 晴子（愛医大）、中島 裕美子（埼玉大）、永田 治樹（立教大）
山下 ユミ（個人）

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第1回 5月 18日

第2回 9月 28日

第3回 12月 14日

第4回 3月 15日

2) 申請募集と認定審査

(1) 第34回募集(2020年7月受付、9月認定)

審査件数: 9件(基礎9名、中級0名、上級0名)

認定件数: 9件(基礎9名、中級0名、上級0名)

(2) 第35回募集(2021年1月受付、3月認定)

審査件数: 4件(基礎1名、中級0名、上級新規2名、上級更新1名)

認定件数: 4件(基礎1名、中級0名、上級新規2名、上級更新1名)

(3) 資格取得者の現存数

第35回認定後 495名

(基礎465名、中級10名、上級20名)

3) ポイント制度の見直し

(1) 協会関連活動のポイント種類の追加

(2) オンラインのイベントの受講証明書の作成

4) 申請促進のための情報発信

(1) 関連雑誌への広告掲載、関連メーリングリストへの投稿

(2) ポスターの更新

(3) クリアフォルダーの作製(1,500個)

5) 各種イベントのポイント対象可否についての事前確認

6) 本認定資格制度の対象範囲の再考(次年度継続課題)

7) その他

(1) 新型コロナウイルス感染防止の影響への対応

第34回(2020年7月募集)の更新最終期限を第35回(2021年1月募集)の更新最終期限に変更。

第35回認定審査におけるポイント対象期間の半年追加。

(2) ヘルスサイエンス情報専門員認定資格規程 [2020年6月15更新]

軽微な修正のため、附則の追加はなし(「別表中、「施行日より3年間は経過措置として・・・」の1文を削除(施行日和3年間以上が経過したため)」)。

Ⅷ. 受託事業委員会

1. 委員

担当理事 河合 富士美(聖路加)

委員長 河合 富士美(聖路加)

委員 総務会兼務

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

- (1) 委員会としては会議を持たず、総務会で全体を統括した。
- (2) それぞれの事業はワーキンググループを組織するなどして活動した。

2) 診療ガイドライン作成支援－診療ガイドラインワーキンググループ、診療ガイドライン文献検索ワークショップワーキンググループ

※詳細は事業別報告を参照

3) 医学中央雑誌刊行会受託事業

ホームページのリニューアルによる質の高い、効果的な情報発信を検討した。

(担当：企画・調査委員会)

3. 今後の課題

新規受託事業の検討

4. 事業別報告

1) 診療ガイドラインワーキンググループ

(1) 委員

担当理事 河合 富士美 (聖路加)

グループ長 阿部 信一 (慈恵大)

委 員 石井 恵 (個人)、柿田 憲広 (個人)、加藤 恵子 (国がん)、河合富士美 (聖路加)、川崎 かおる (岩医大)、工藤 女恵 (個人)、小嶋智美 (個人)、小林 飛鳥 (個人)、古谷野 ありさ (岩医大)、佐藤 正恵 (個人)、高崎 千晶 (個人)、寺澤 裕子 (個人)、成田 ナツキ (個人)、長谷川 亜紀 (旭中央病)、堀米 拓哉 (日大歯)、森正 智子 (昭和大)、山口 直比古 (個人)、山崎 むつみ (静岡がん)、吉原理恵 (個人)、渡辺 由美 (日医大中)、愛知医科大学総合学術情報センター (代表：小林 晴子)、大阪市立大学学術情報総合センター医学分館 (代表：中橋 巧也)、杏林大学医学図書館 (代表：藤沢 靖子)、慶應義塾大学信濃町メディアセンター (代表：佐藤 友里恵)、滋賀医科大学附属図書館 (代表：児玉 恭祐)、信州大学附属図書館医学部図書館 (代表：後閑 壮登)、東京慈恵会医科大学学術情報センター (代表：阿部 信一)、東京女子医科大学図書館 (代表：三浦 裕子)、東邦大学メディアネットセンター (代表：大谷 裕)、奈良県立医科大学附属図書館 (代表：鈴木 孝明) 【下線＝リーダー】

(2) 事業計画と年間目標の達成状況

①委員会の開催

リーダー会 第1回 12月15日

ワーキンググループ会議 第1回 2月12日

②受託状況

21 学会・研究班等より 28 ガイドラインを新規に受託した。(詳細は別表参照) 昨年度受託分 (35 件) の検索が残っていたため 6 月に今年度の受付を停止、1 月に

再開した。

③研修会の開催

診療ガイドライン文献検索ワークショップ開催は中止とした。

④委員会関係文書の整備

担当者案をもとにリーダー会で検討し WG 会議を経て実行（予定）

(3) 今後の課題

①サブリーダー制の開始

②文献検索スキル認定制度の検討

2) 診療ガイドライン文献検索ワークショップワーキンググループ

(1) 委員

担当理事 河合 富士美（聖路加）

グループ長 阿部 信一（慈恵大）

委 員 加藤 恵子（国がん）[2020 年 1 月から]、児玉 恭祐（滋医大）
[2020 年 3 月から]、中橋 巧也（阪市大医）[2020 年 1 月から]
河合 富士美（聖路加）、小嶋 智美（個人）、鈴木 孝明（奈医大）、山口 直比古（個人）

(2) 事業計画と年間目標の達成状況

①委員会の開催

開催なし

②ワークショップの開催

8 月に大阪市立大学での開催を予定していたが中止した。

(3) 今後の課題

①運営マニュアルの更新（Web での開催方法）

②シラバスの公開

2020年度受託事業 診療ガイドライン一覧		
番号	ガイドライン名	学会等
GL2001	頭頸部癌診療ガイドライン	日本頭頸部癌学会
GL2002	先天鼻涙管閉塞診療ガイドライン	日本涙道・涙液学会
GL2003	ゼラチンスポンジガイドライン改訂	日本IVR学会
GL2004	がん患者に対するアピアランスケアのガイドライン2021版	日本がんサポーターシップケア学会
GL2005	乳癌診療ガイドライン	日本乳癌学会
GL2006	肺癌診療ガイドライン2020	日本肺癌学会
GL2007	肺癌診療ガイドライン2021	日本肺癌学会
GL2008	骨転移診療ガイドライン改訂版	日本臨床腫瘍学会
GL2009	画像診断ガイドライン	日本医学放射線学会
GL2010	ALS診療ガイドライン	日本神経学会
GL2011	食道癌診療ガイドライン	日本食道学会
GL2012	本態性振戦の診療ガイドライン	神経変性疾患領域の基盤的調査研究班

番号	ガイドライン名	学会等
GL2013	Oncocardiologyガイドライン	日本臨床腫瘍学会
GL2014	前立腺がん診療ガイドライン（第4版）	日本泌尿器科学会
GL2015	泌尿器外傷診療ガイドライン	日本泌尿器科学会
GL2016	成人スチル病診療ガイドライン2017補遺	厚生省難病政策班「自己免疫疾患に関する調査研究」班
GL2017	プレフレイル高齢大腸がん患者のための臨床的提言	福岡大学
GL2018	難治性血管腫・脈管奇形・血管奇形・リンパ管奇形診療ガイドライン改訂	令和2年度厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）「難治性血管腫・脈管奇形・血管奇形・リンパ管腫・リンパ管腫症および関連疾患についての調査研究班
GL2019	間脳下垂体機能障害の診療ガイドライン	「厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業「間脳下垂体機能障害に関する調査研究」班
GL2020	精巣腫瘍診療ガイドライン	日本泌尿器科学会
GL2021	肺癌診療ガイドライン2022	日本肺癌学会
GL2022	膠様滴状角膜ジストロフィーの診療ガイドライン	前眼部難病の標準的診断基準およびガイドライン作成のための調査研究」研究班
GL2023	成人・小児進行固形がんにおける臓器横断的ゲノム診療のガイドライン	国立がん研究センター東病院
GL2024	乳癌診療ガイドライン2021	日本乳癌学会
GL2025	多発性筋炎・皮膚筋炎診療ガイドライン	厚生労働省難治性疾患克服研究事業自己免疫疾患に関する調査研究班 筋炎分科会
GL2026	子宮頸癌治療ガイドライン改訂2022	日本婦人科腫瘍学会
GL2027	がん薬物療法時の腎障害診療ガイドライン改訂版	日本腎臓学会
GL2028	がん免疫療法ガイドライン 改訂第3版	日本臨床腫瘍学会

X. 協会賞・奨励賞選考委員会

1. 委員

担当理事 平 紀子（個人）

委員長 石井 保志（個人）

委員 石立 裕子（個人）、泉 峰子（科学院）、首東 誠（福井大医）

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第1回 1月 23日

第2回 2月 6日

2) 2020年度協会賞・奨励賞の選考

第2回選考委員会で候補業績を選考し、理事会に報告を行った。

3. 今後の課題

1) 協会賞・奨励賞のブランディング

- 2) 選考に関わるガイドラインの整備
- 3) 委員の増員

X I. 組織・制度委員会

1. 委員

担当理事 土田 壮一（金医大）
委員長 新谷 知之（東海大伊）
委員 尾崎 聖太郎（麻布大）、加藤 恵子（国がん）、加藤 晃一（新大関）
[2021年3月から]、森田 創平（北里医）

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第1回 8月 6日
第2回 10月 8日
第3回 12月 17日
第4回 3月 30日

2) 本会諸規則の制定及び改定

以下の規程類の制定及び改定作業を行った。（現在作業中のものを含む。）

(1) 制定作業

無し

(2) 改定作業（軽微な修正は除く。）

- ①受託事業委員会内規
- ②受託事業作業費に関する内規
- ③JMLA-CE コース登録申請書
- ④JMLA-CE コース登録申請要項
- ⑤入会及び退会に関する細則
- ⑥中央事務局規程

(3) その他

定款、規程、細則、内規の序列について検討し、序列に合わない規程以下の名称の変更を検討した。また、この名称変更に伴い、根拠規定を示す条文の変更も検討し、新旧対照表にまとめた。

3) 本会の組織・制度に関すること

定款の改定案が6月26日開催の通常総会において可決、承認されたので、所轄庁に提出し10月9日に認証されたので、本会ホームページへ掲載すると共に、専務理事から会員各位へその旨通知した。

3. その他の報告事項

改定された規程類については、最新版を本会ホームページへ掲載する。

4. 今後の課題

- 1) 諸規則の制定及び改定作業の迅速化を図る。
- 2) 規程全般に渡る整合性を確認し、体系化を図る。
- 3) 規程類の用語及び表記、並びに各種申請書の様式の統一を図る。
- 4) 総会での定款改定案の書面表決において会員からいただいたご意見に関し、検討する。

XⅡ. 部会 病院部会

1. 委員

部会長 加藤 恵子（国がん）

委 員 泉 峰子（科学院）、春日井 泉江（名記念）、小林 飛鳥（個人）、
高崎 千晶（個人）、成田 ナツキ（個人）、吉田 言（NCNP）[2020年10月
まで]

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 部会の開催

第1回 8月10日

第2回 10月10日

第3回 2月20日

2) 定例会の開催

11月14日

3) 見学会の実施

今年度は実施しない。

4) 研修会の実施

3月6日実施

参加：会員 26人

3. その他の報告事項

1) 部会、定例会とも Zoom による Web 開催

2) 研修会は、Zoom による Web 開催 JMLA 会員のみ無料で実施

4. 今後の課題

見学会の実施